

明日の危機

— 関東大震災100年 —

交通防災まちづくりにおける社会実験 報告書

主催：一般社団法人豊洲スマートシティ推進協議会

連携：次世代都市—交通デザイン研究会、国交省関東地方整備局、東京都、江東区、東京大学（羽藤教授）、大新東株式会社

協賛：IHI、清水建設、東京ガス不動産、三井不動産

展示構成：Infras 佐多祐一

デザイン：蜷木翔一

交通防災まちづくりにおける社会実験

目的

- | 自然災害に対する備えの周知
- | 江東区の浸水エリアから臨海部への水害時事前避難訓練
- | 「交通と防災をテーマにした2050年の首都圏の空間計画及び都市デザインの提案」の展示
- | 産官学民共同の東京臨海部/江東区における交通防災まちづくりの検討

社会実験内容

- ① 「明日の危機—関東大震災100年—」交通防災展示
- ② バスを活用した水害時事前避難訓練
- ③ 産官学セッション

社会実験の概要体制図

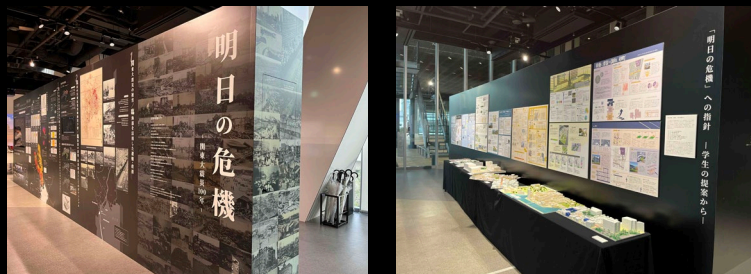
明日の危機 ー 関東大震災100年ー

主催：(一社) 豊洲スマートシティ推進協議会

事務局：清水建設

交通防災展示

連携先：東京大学（羽藤教授）・清水建設



期間：9月1日～9月30日 ※金・土・日開催

場所：ミチノテラス豊洲（ミチラボ）

内容：

【協議会】「関東大震災の被災状況」「水害時の広域避難に関する提案および量子コンピュータ等を用いた事前避難シミュレーション」の展示

【東京大学】「2050年の首都圏計画及び都市デザインの提案」の展示

参加人数：429名

水害時事前避難訓練

連携先：大島4丁目団地・大新東株式会社・
豊洲5丁目マンション自治会・江東区・
清水建設



期間：9月1日

内容：【バス避難】大島四丁目団地→ミチノテラス豊洲
【交通防災拠点機能確認】Lアラート、炊出し、備蓄品
マンホールトイレ

【アンケート】バス避難の意識調査

参加人数：36名

産官学セッション

連携先：国交省関東地方整備局・東京都
江東区・東京都観光汽船・大新東株式会社
豊洲/大島地区住民・東京大学 他



期間：9月21日

場所：ミチノテラス豊洲（ミチラボ）

内容：社会実験を通じての産官学民意見交換

参加人数：63名



スケジュール

8 日月火水木金土
2023 1 2 3 4 5
6 7 8 9 10 11 12
13 14 15 16 17 18 19
20 21 22 23 24 25 26
27 28 29 30 31

2023 9月

10 日月火水木金土
2023 1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28
29 30 31

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18 <small>敬老の日</small>	19	20	21	22	23 <small>秋分の日</small>
24	25	26	27	28	29	30

- ①交通防災展示 
9月1日~30日 (金・土・日)
- ②水害時事前避難訓練 
9月1日 10時~13時
- ③産官学セッション 
9月21日 10時~12時

Chapter

01

「明日の危機—関東大震災100年—」交通防災展示

関東大震災の被害/臨海部を活用した避難・救助

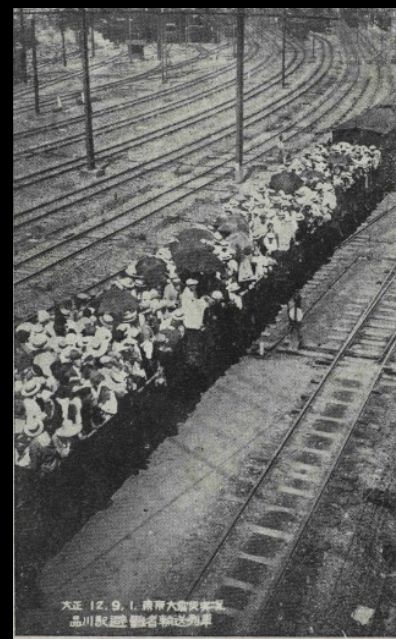
- 東京臨海部における当時の写真を展示した。
- 芝浦港は当時唯一の大型船が接岸可能**であったため、救援物資や救護団、避難民等が海を介して集まる災害支援拠点となったが、広さが十分でなく、混乱を招いたことから、その後の港湾整備の必要性を再認識する契機となった。



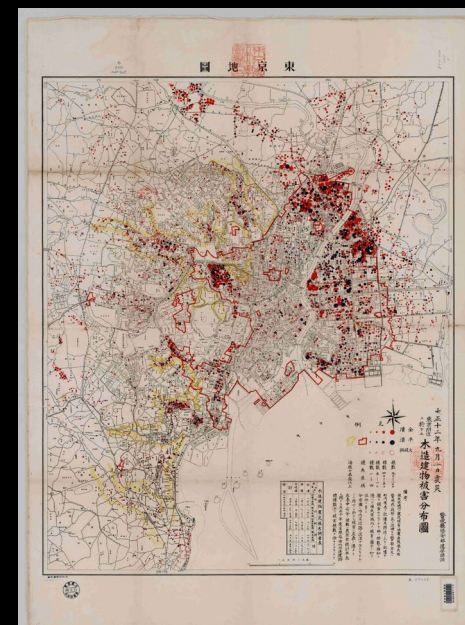
上野駅の焼け跡 (Tokyoアーカイブより引用)



芝浦港 (港湾局アーカイブより引用)



新宿駅 (Tokyoアーカイブより引用)

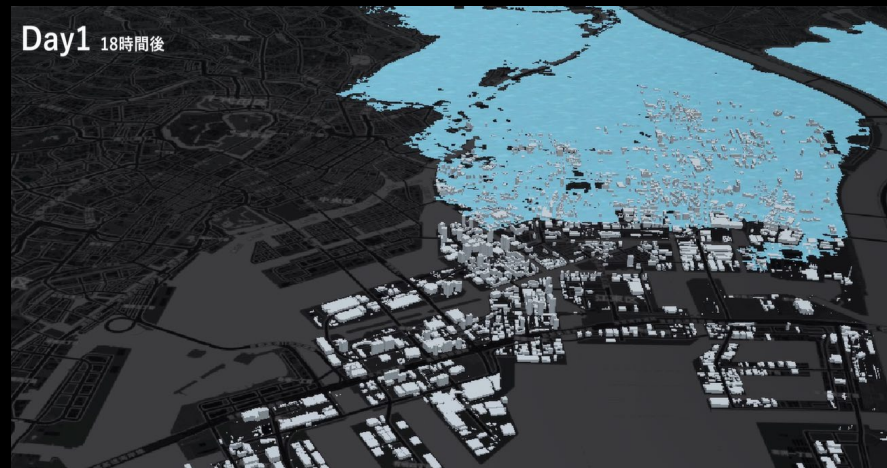


関東大震災における東京付近の木建物被害分布 (Tokyoアーカイブより引用)

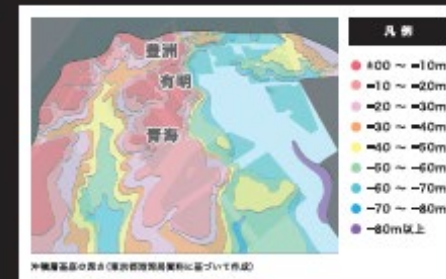
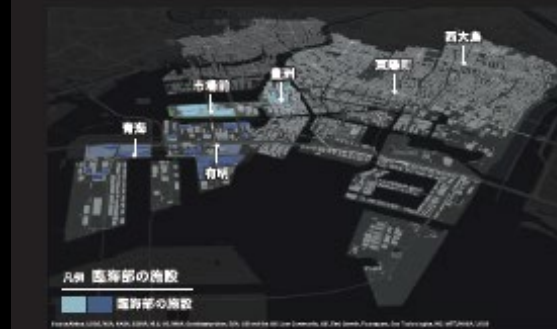
現在の江東区災害時被害予想/臨海部の避難・救援拠点としてのポテンシャル

江東区の災害リスクの可視化

「江東区地域防災計画令和3年度修正(計画編)」より引用



臨海部の災害に対するポテンシャル



皆で明日の危機を乗り越えるために

-発災が事前に予見可能な水害から考える-

江東区における水害時広域避難計画

江東5区の大規模水害タイムライン

江東5区の広域避難計画



鉄道による広域避難

地下鉄8号線延伸後の駅への
アクセス距離と滞在人口の集積

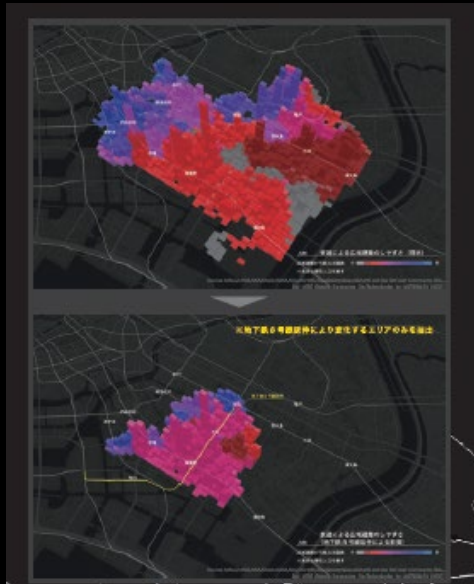


地下鉄8号線延伸後の駅へのアクセス距離と滞在人口の集積

広域避難対策となり得る最寄りの駅までのアクセス距離が、地下鉄8号線延伸によりどのように変化するかを示す。最寄りの駅までのアクセス距離が短くなり、大衆が乗る中の避難に利して有利であることがわかる。(左下グラフ)

また地下鉄8号線の延伸は、滞在人口の集積が多い江東区中央部を通過する。圏外や圏内、圏外などへ広域避難する人が集中することを緩和できる可能性がある。(右下グラフ)

鉄道による広域避難の
しやすさを8号線延伸前
と後の変化を可視化

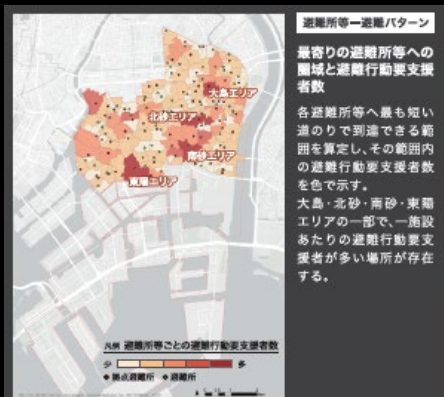
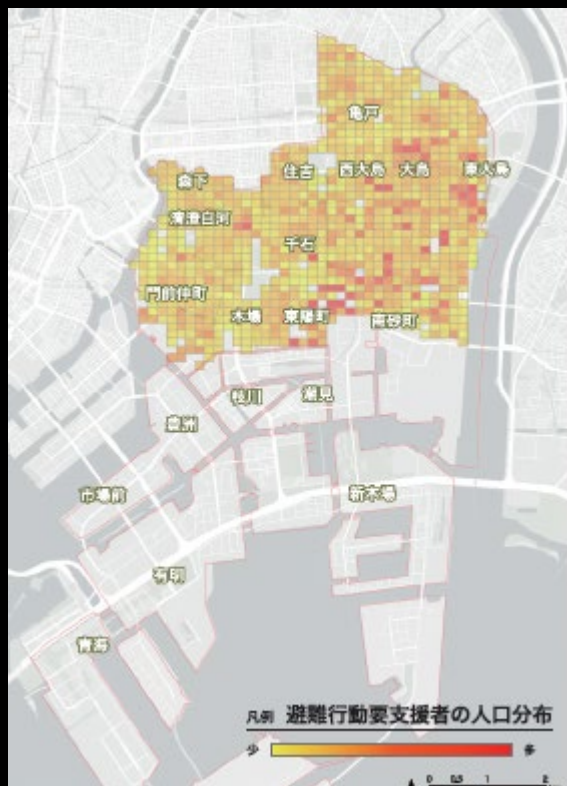
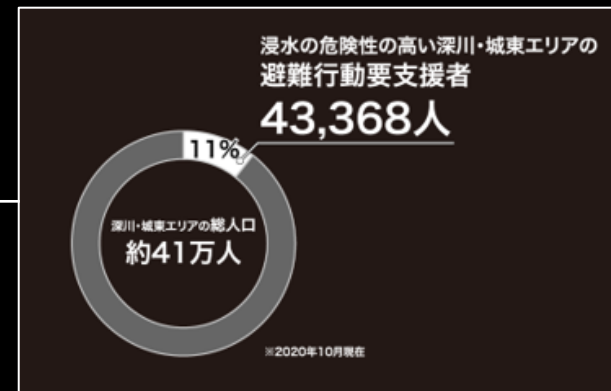
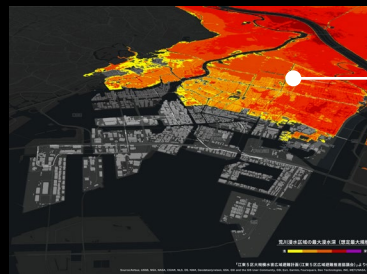


皆で明日の危機を乗り越えるために

-発災が事前に予見可能な水害から考える-

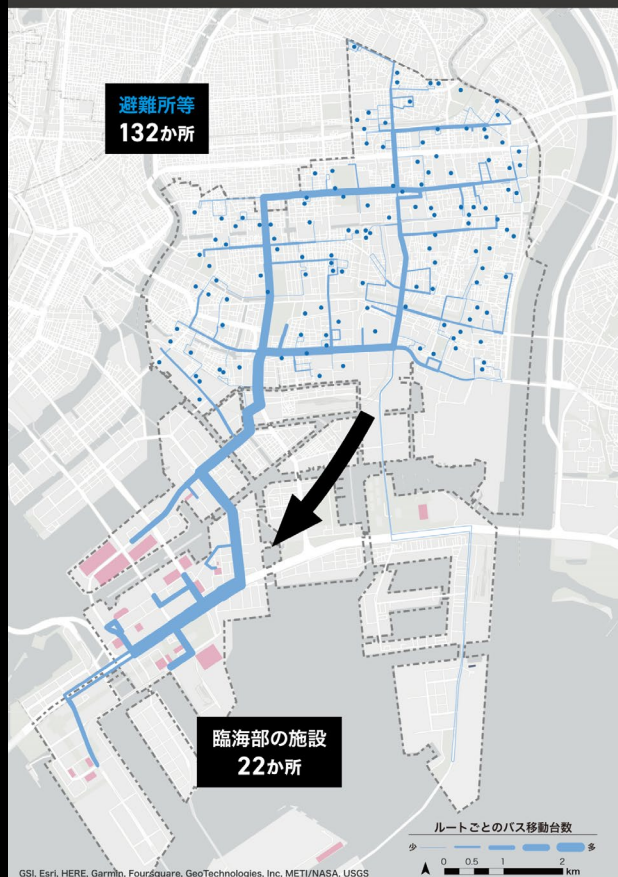
バスによる臨海部への事前避難（避難行動要支援者）

現状分析

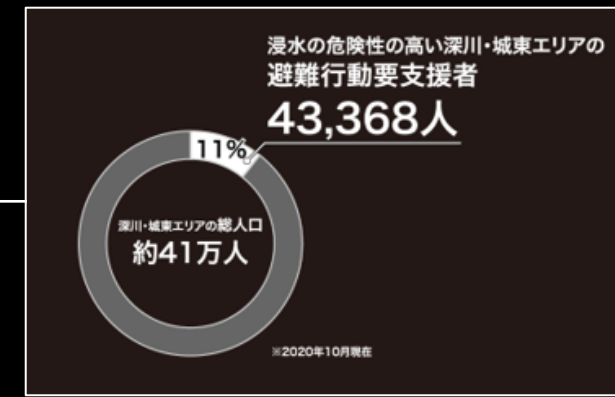
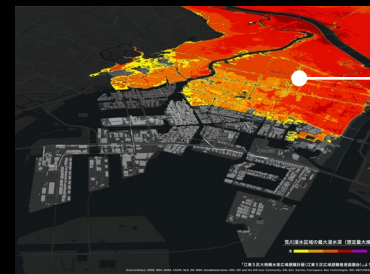
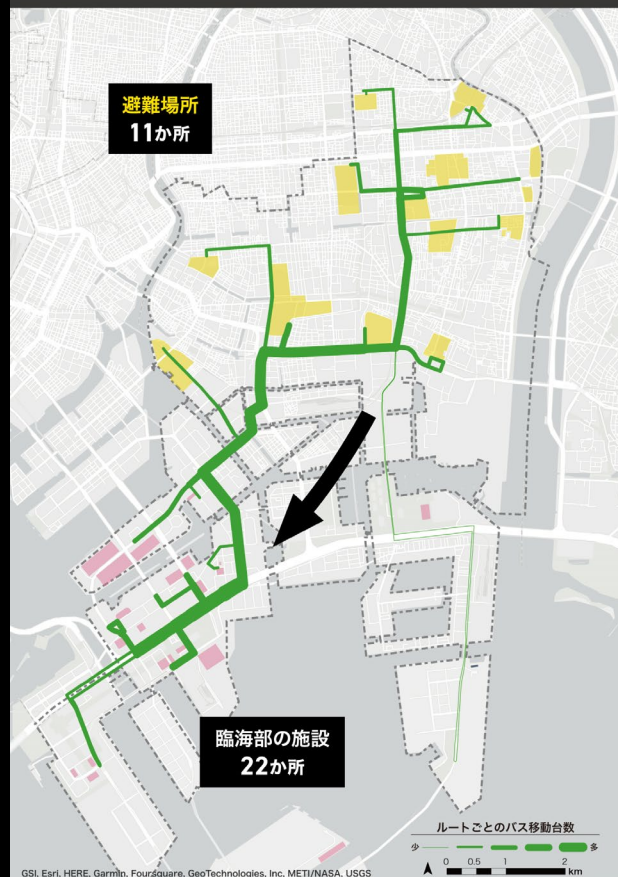


バスによる支援策の検討

水害時事前避難シミュレーション
プランA
- 避難所等を活用した場合 -



水害時事前避難シミュレーション
プランB
- 避難場所を利用した場合 -



水害時事前避難シミュレーション プランA(避難所等を利用した場合)

	バスの台数	バスへの乗車人数	バスの時速	移動の所要時間
パターン①	45台	30人/台	30 km/h	26時間 10分
パターン②	45台	20人/台	30 km/h	38時間 50分
パターン③	45台	30人/台	15 km/h	37時間 10分

水害時事前避難シミュレーション プランB(避難場所を利用した場合)

	バスの台数	バスへの乗車人数	バスの時速	移動の所要時間
パターン①	45台	30人/台	30 km/h	25時間 50分
パターン②	45台	20人/台	30 km/h	38時間 30分
パターン③	45台	30人/台	15 km/h	37時間 10分

避難行動要支援者 **3万人**の移動に最低でも**26時間**は必要

阪神淡路大震災からの東京への提言 – 海は壊れないインフラ –

- 阪神淡路大震災において海上自衛隊阪神基地隊司令として救援活動を指揮した（故）仲摩徹彌による早稲田大学での講演記録（2003/10/21）の展示

被災地における自衛隊救援活動の実態

救援ルートへの調査

救護の課題

拠点確保の課題

広域緊急医療

危機とは何か



「災害派遣」の標識を提示して国道2号を被災現場に急ぐ陸上自衛隊第3特科連隊のトラックの列。このトラックには、海上自衛隊の陸上派遣隊員が乗っている。



神戸新港第3突堤に横づけしている補給艦「ときわ」に並んで給水を待つ陸上自衛隊の給水車は避難所近くまで運べるので、特に喜ばれた。



神戸港の第1突堤に集結した陸上派遣隊は、直ちに陸上自衛隊のトラックで救出現場に向かう。救出されるのを待っている人たちがたくさんいる。急がなければ。



海上輸送の拠点として重要な役割を果たした神戸新港。手前の第4突堤、第3突堤、第2突堤、第1突堤。第3突堤に横づけしているのが、補給艦「さかみ」。



1月18日早朝、神戸沖に停泊中の艦艇とドック入りしている潜水艦乗員合わせて226人が掃海艇などによって摩耶埠頭に集合した。それから21日までの4日間にわたって各艦艇から延べ826人の陸上派遣隊が上陸した。



日本ポート産業の岸壁に接岸している護衛艦「あさゆき」に着艦する「HSS-2B」。



電柱は根元から折れて民家に向かって倒れている。がれきなどを避けて進むが、油断していると落下物があるかもしれない。危険極まりない作業である。しかし、「精強、即応」の底力をみせる時でもある。



手前の第8突堤には、補給艦「とわだ」が横づけして給水支援をしている。



震災からほぼ一週間が経過した1月24日、神戸港第1突堤に陸上自衛隊第3師団と海上自衛隊第1輸送隊の共同運営による「入浴支援所」がオープンした。通称「みうら温泉」である。入浴できないとストレスがたまる。被災者に喜ばれたのは言うまでもない。入浴時間も午前9時から午後8時までと長い。男女別々の風呂を作ることには出来ない。男性の入浴日は奇数日、女性は偶数日と決められた。



焼け跡にはまだ余熱が残っている。熱い。靴底を通して伝わる熱気は、我慢の限界に達する。だからと言って逃げ出すことはできない。白骨化した焼死体が、そこにはあるからだ。傍には、ベッドがあり、指輪もあった。女性のものだろうか。こうした遺体を十七体収容した。生存者八人を救出できたのがせめてもの救いである。



朝早くから夕方まで連日の支援作業は身にこたえる。補給艦で雑魚寝だが、手足を伸ばして休めるのがよい。何よりの休養だった。館内で宿泊した陸上自衛隊員10,050人、航空自衛隊員863人。一日平均193人が艦で入浴した。



「みうら温泉」に向かう人たちの表情は、みんな明るい。風呂に入ることによって身の心もきれいさっぱりするからだろう。寒い道程もなんのその、親しい人を誘って訪れる。3月6日までの42日間に入浴した人は15,647人。一日平均364人になる。



輸送艦から降ろされた救援物資は、直ちに陸上自衛隊のトラックで被災者のもとに運び込まれた。また、陸上自衛隊の隊員と車両を淡路島から運んだのは海上自衛隊の輸送艦。随所に連携プレーがとられ、ひいては救援活動を成功させることになった。



一瞬にしてビルは崩れ、東海した家屋も数限りない。地震発生まもなく方々から火の手が上がった。消防車にも限りがある。消火用水もない。焼ける我が家になすすべもなく、被災者はただ立ち尽くすしかなかった。

東京大学「2050年の首都圏計画及び都市デザインの提案」

- 東京大学の演習課題「基礎プロジェクトⅠ」の成果を展示した。
- 関東大震災から100年にあたる今年度は、首都直下地震を想定しつつ、低地の豪雨災害、インナーシティ、郊外の人口減少を見越し、江東区、墨田区、神奈川県横須賀市追浜町、リニア中央新幹線駅となる橋本、周辺の八王子、立川を対象に下記の提案がなされた。

班	表題
橋本・八王子・立川	リニアと変える首都の未来
江東区・砂町	移動と滞留の調和、砂町
江東区・辰巳	水と緑で潤いが続く街
墨田区・京島	集い、憩い、訪れ、暮らす場所
墨田区・大横川公園	「横の繋がり」の再創造-下町の動脈を作る-
追浜町	拝啓、50年後の追浜へ-拠り所のある緑の中のまち-
追浜町	移動と賑わいで「おっ」住みよい、追浜

東大生による成果物の展示



Chapter

02

バスを活用した水害時事前避難訓練

水害時事前避難訓練の経緯



大新東株式会社 車両運行では初となる
災害時協力協定を東京都江東区と締結
～車両確保と移送・運行サポートで地域連携を強化～



災害発生時に使用する

旅客車両例(サン・アンド・ムーン号)

災害時協力協定概要

2022年12月に大新東株式会社は、車両運行では初となる**災害時協力協定**を江東区と締結

自然災害発生時、区内で管轄する**計45台**の車両を移送手段として使用するサポート体制を整えた

課題

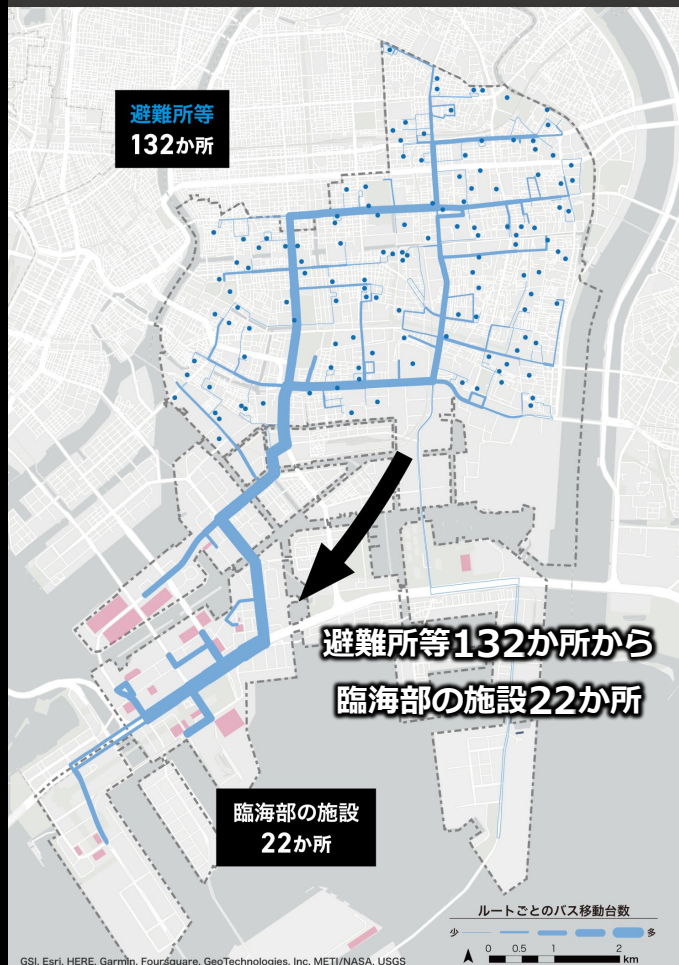
避難先や**手法・ルート**は決まっていない

前回の産官学セッションで「**実際バスを何台でどのくらいの時間がかかるのか知りたい**」との指摘があった

(再掲) 水害事前避難シミュレーション

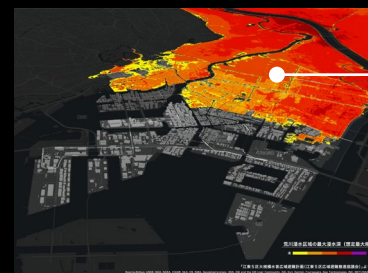
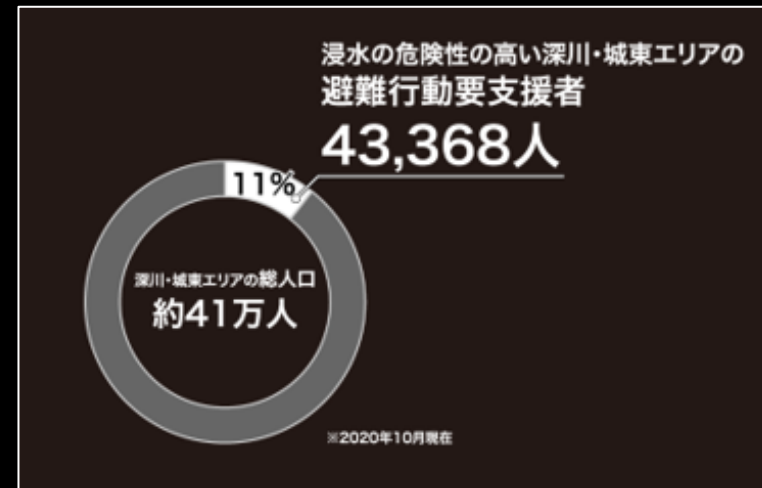
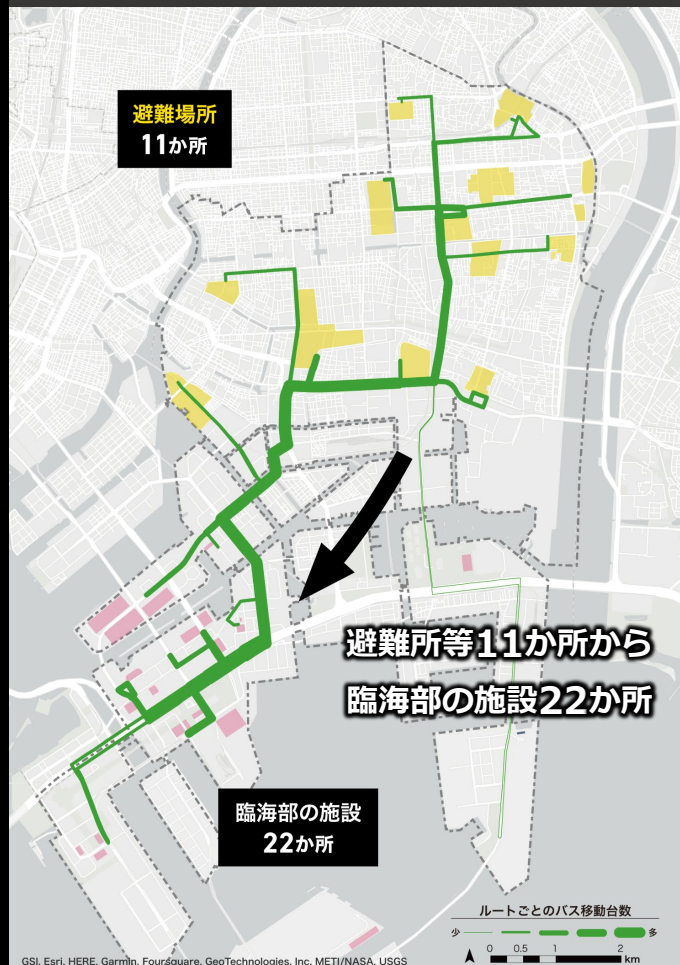
水害時事前避難シミュレーション プランA

- 避難所等を活用した場合 -



水害時事前避難シミュレーション プランB

- 避難場所を利用した場合 -



(再掲) 水害事前避難シミュレーション結果

水害時事前避難シミュレーション プランA(避難所等を利用した場合)

	バスの台数	バスへの乗車人数	バスの時速	移動の所要時間
パターン①	45 台	30 人 / 台	30 km/h	26 時間 10 分
パターン②	45 台	20 人 / 台	30 km/h	38 時間 50 分
パターン③	45 台	30 人 / 台	15 km/h	37 時間 10 分

水害時事前避難シミュレーション プランB(避難場所を利用した場合)

	バスの台数	バスへの乗車人数	バスの時速	移動の所要時間
パターン①	45 台	30 人 / 台	30 km/h	25 時間 50 分
パターン②	45 台	20 人 / 台	30 km/h	38 時間 30 分
パターン③	45 台	30 人 / 台	15 km/h	37 時間 10 分



避難行動要支援者
3万人の移動に最低でも

26時間は必要

水害時事前避難訓練の概要

【目的】

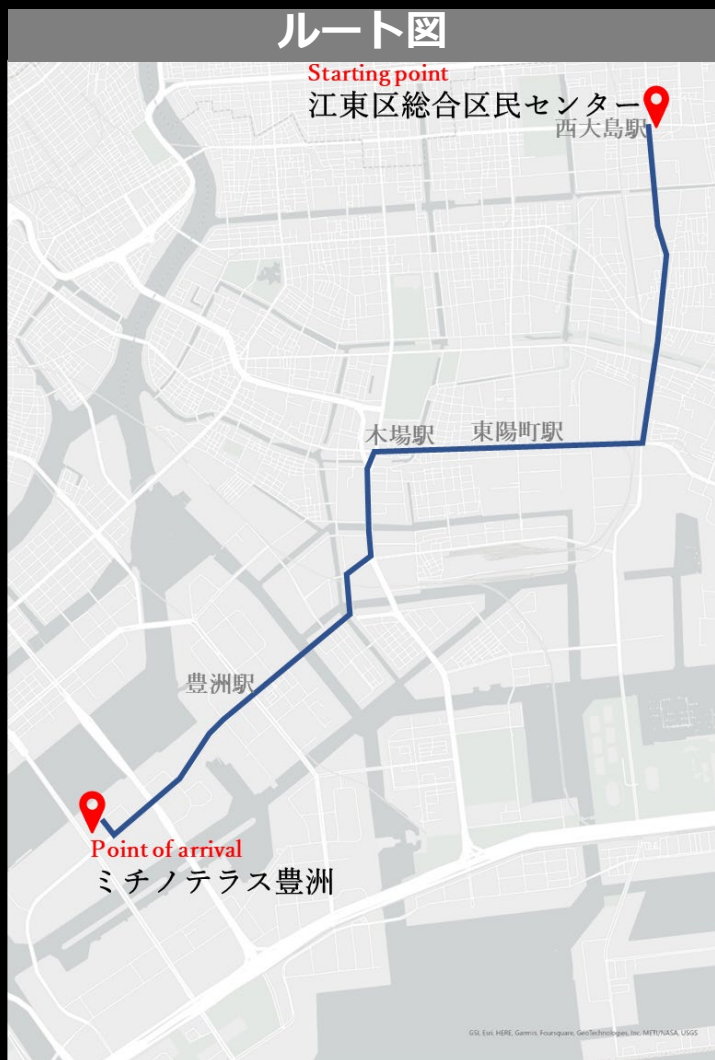
- ・ 水害時事前避難シミュレーション結果のルート確認
- ・ 江東区が災害時協力協定締結をしている
大新東株式会社所有バスの運用検討

【実施概要】

9:30	江東区総合区民センター前 新大橋通り沿い 「青少年に愛の手を像」周辺に集合
9:30~10:00	訓練の説明と事前アンケートのご記入
10:00~10:30	大島4丁目団地（江東区総合区民センター前）から ミチノテラス豊洲バスターミナルまで水害時バス避難訓練
10:30~11:00	ミチノテラス豊洲にて交通防災機能確認
11:00~11:30	交通防災展示の見学
11:30~12:30	炊き出しお弁当の試食
12:30~13:00	ミチノテラス豊洲バスターミナルから 大島4丁目団地（江東区総合区民センター前）へ移動
13:00	解散



水害時事前避難訓練結果



シミュレーション結果

避難に要する時間は**最低26時間**

事前避難訓練結果

所要時間：27分33秒

移動距離：7.7km

時速：16.8km

実際の避難に要する時間は約**36時間**

交通防災拠点確認（ミチノテラス豊洲）

一時滞在スペース



マンホールトイレ



災害時情報発信（サイネージ）



キッチンカーによる炊き出し

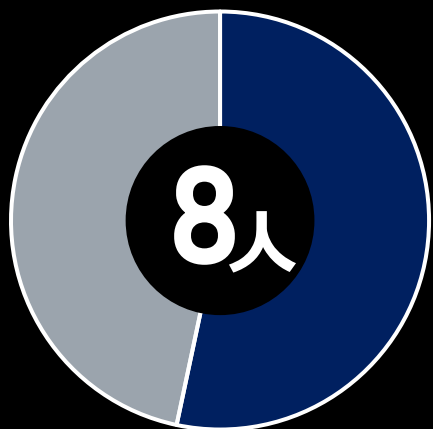


訓練参加者のアンケート結果

バス乗車前と乗車後の意識変化

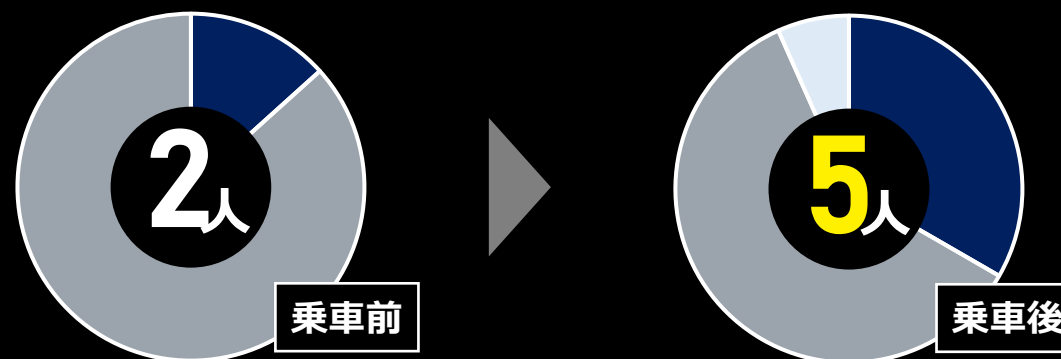
アンケートは60歳以上の方**15名**を対象とした
(内75歳以上は11名)

歩行に対する不安が少しでもあるとの回答

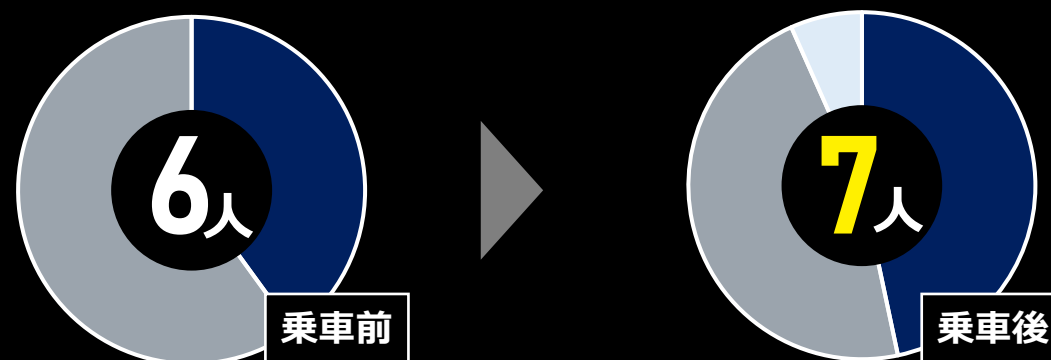


■ はい
■ いいえ

水害時に避難するとの回答



広域避難時にバスを利用したいとの回答



訓練参加者の実際の声

不安や疑問

周囲の人は**高齢者**なので助け合う余裕はなさそう

実際に災害が起きたときに本当に避難できる台数の**バスを確保**してくれるのだろうか

14日間の備蓄品の量を想像できない

広域避難という言葉は知っているが、**内容や必要性**まで正しく理解できていない

意識の変化

日頃の情報からある程度想定していたが、**訓練を通してより具体的な災害を感じる**ことができた

浸水の恐ろしさがよく分かった

避難警報が発令されたら、自分の考えではなく、**指示に従って行動**したいと強く思った

避難で海のほうに逃げるのに違和感があったが、**臨海部の安全性**がわかった

Chapter

03

産官学セッション

セッションの参加者と様子

日時：9月21日 10:00～13:00

場所：ミチラボ

内容：社会実験を通じての産官学民意見交換



行政	国交省	関東地方整備局道路部	野坂部長 森山課長 松本課長補佐
	東京都	総務局 総合防災部	西平担当課長 中嶋担当課長
		デジタルサービス局	浅田主事 住吉担当
	江東区	都市整備部 まちづくり推進課	吉田係長 瀧上担当 山口担当
地域振興部 地域振興課		湯野川担当	
学識	東京大学		羽藤教授 中尾特任助教 学生12名
	芝浦工業大学		楽 准教授
地元	豊洲地区連合会		馬締会長
	5丁目マンション自治会		小山会長
	豊洲1.2.3丁目連合会		森田副会長 金子会長
	大島4丁目団地		関谷様 橋本様 平田様
民間	大新東株式会社 東京都観光汽船		藤代企画室長 村岡取締役
	一般社団法人豊洲スマートシティ推進協議会 (IHI, 清水建設, 東京ガス不動産, 三井不動産)		
			計63名

産官学セッションでのご意見

交通防災拠点・高台まちづくり

- 道路や道の駅・バスタの防災機能の確保の必要性
- 交通行動支援の仕方を検討すべき
- 行政間をまたぐ避難先確保の検討が必要

移動手段（バス・船）

- 災害時の移動手段・運転手・乗務員の確保が必要
- 災害時に船が果たせる役割を検討中
- 平時から船の利用（通勤等）機会を増やす

データ分析・情報収集発信

- 災害時の交通行動は変数が多く、シミュレーションが困難
- 事前のリスク周知、つながりの確保で避難へのハードルを下げることができる
- サイネージを活用した、リアルタイムの情報発信が多数のステークホルダーが関わっており困難
- 産官学民の連携が不可欠

防災教育・コミュニティ

- 防災に関する学校教育の必要性
- 万が一の防災対策として普段からの人のネットワークの構築が重要
- タワーマンションはコミュニティが希薄
- 水害を自分事としてとらえてもらう仕掛けづくりが必要

総括

項目	実施内容	今後の検討内容
拠点（ノード）	<ul style="list-style-type: none">ミチノテラス豊洲の交通防災機能確認臨海部のポテンシャルの展示	<ul style="list-style-type: none">江東区拠点避難所の開設訓練船着き場の運用方法
ネットワーク（リンク）	<ul style="list-style-type: none">地下鉄8号線延伸後の駅へのアクセス距離と滞在人口の集積	<ul style="list-style-type: none">豊洲と他地域との避難連携の検討
マネジメント（運営）	<ul style="list-style-type: none">水害時のバスを活用した事前避難訓練	<ul style="list-style-type: none">江東区拠点避難所の開設運用訓練産官学民連携した災害対応の検討
モビリティ	<ul style="list-style-type: none">水害時における鉄道，バスによる臨海部・他地域への事前避難の展示	<ul style="list-style-type: none">船，小型モビリティの災害時の活用方法自動運転車の活用（平時・災害時）
データ分析	<ul style="list-style-type: none">量子コンピュータ等による水害時事前避難シミュレーション避難パターンの現状分析	<ul style="list-style-type: none">避難所の利用者数予測（災害の種類別・開設数別）
情報収集発信	<ul style="list-style-type: none">水害時のサイネージ発信の実証	<ul style="list-style-type: none">行政・民間の持つ災害情報のデータの集積情報収集・発信の体制構築

各メディアでの紹介[1/2]

■ とよすと (2023年9月1日)



洪水の前に逃げろ！江東区のゼロメートル地帯からバスで豊洲へ、「水害時事前避難訓練」でわかった避難の意味

■ 読売新聞社 (2023年9月2日)

江東区では区民らが水害を想定した避難訓練に参加した。

区では区内のバス会社と災害時の協力協定を結んでおり、水害などが起きた際には、区民は同社のバスを利用して、安全な場所に避難することを想定している。

訓練は「清水建設」などで行われる「豊洲スマートシティ推進協議会」が企画。約20人が参加し、北東部の大島地区から臨海部までの約8kmの距離を、バスで移動した。ルートは清水建設が開発した安全な避難経路を導き出すシステム「マチミル」で計画したという。

参加した根本さつきさん(74)は「水害では浸水が長く引くことも考えられるので、早めの避難が大切だと感じた」と話していた。



安全な避難場所に向かうバスに乗り込む参加者ら(1日、江東区)

■ 日刊建設工業新聞 (2023年9月11日)

人やモノの動き可視化 清水建設 街づくり計画を支援

清水建設は、歩きやすさや利便性を重視した街づくり計画を支援するサービス「マチミル」の提供を始めた。国勢調査などのオープンデータと地理情報システム(GIS)を組み合わせ、人流やモノの動きを分析して可視化。地域の活性化や防災、省エネ化の施策に役立ててもらおう。今後、地方自治体や地域振興団体向けに展開し、計画立案や活動を支援していく。

街づくりは地域の課題やビジョンの認識を共有した上で計画の効果を予測し、質の高いエリアマネジメントにつなげることが重要になる。マチミルはデータに

基づいた公正な分析や複数の仮説の検証、視覚的に分析

図(報道発表資料から)

「インクルーシブ」「レジリエント」「サステナブル」の3分野に分けて評価する。歩きやすさや生活の利便性、災害時の避難ルート

の安全性や避難施設の収容人数、地域の自然の連続性や生物多様性といった検証が可能だ。多様な分析データを基に、地域に合わせた取り組みを支援する。

分析や検証には、独自開発した公共施設・インフラ統合評価システム「パブリック・アセット・シミュレーター(PAS)」とGISを統合したシミュレーションシステムを使用。デジタル地図上の道路ネットワークモデルを使い、特定地点から目的地への距離・所要時間や道路上の交通量を評価できるPASの機能を生かし、人の動きや交通の視点から地域の良さを課題を捉える。

提示した魅力や課題は

東京都中央区と江東区の居住人口や滞在人口を可視化した

各メディアでの紹介[2/2]

■ 建設通信新聞 (2023年9月11日)

■ 豊洲5丁目街づくりニュース (2023年9月30日)

まちづくり計画支援「マチミル」展開

課題を迅速・明確に可視化

清水建設



清水建設は、まちづくり計画支援サービス「マチミル」を、各地域自治体やまちづくり組織などに対して展開する。テーマに合わせた複数の課題の可視化、データの連携活用、多様な関係者が参加した際の高いコミュニケーションを実現する。また、デジタルと地理情報システム(GIS)による人やモノの動きの可視化し、地域の防災・防災準備やエリアマネジメントの分析など、まちづくり計画の多岐にわたる課題を支援するサービス。また、地域には自治体関係の公民館や

「マチミル」は、各種オープンデータと地理情報システム(GIS)による人やモノの動きの可視化し、地域の防災・防災準備やエリアマネジメントの分析など、まちづくり計画の多岐にわたる課題を支援するサービス。また、地域には自治体関係の公民館や

まちづくり計画支援「マチミル」展開

課題を迅速・明確に可視化

清水建設

「マチミル」は、各種オープンデータと地理情報システム(GIS)による人やモノの動きの可視化し、地域の防災・防災準備やエリアマネジメントの分析など、まちづくり計画の多岐にわたる課題を支援するサービス。また、地域には自治体関係の公民館や

防災に強い街づくりへの取り組み

●メトロコープ第二豊洲災害協力隊の活動紹介

毎日豊洲5丁目の各災害協力隊の活動レポートを掲載していますが、今回はメトロコープ第二豊洲災害協力隊を紹介させていただきます。

メトロコープ第二豊洲災害協力隊は、隊長(理事長)以下12名で構成され「自分たちのまちは自分たちで守る」の精神で居住者と力を合わせ、行政機関と協力しながら住民の安全を図っています。

この3年間はコロナ禍の影響で、深川消防署豊洲出張所と相談の上、災害対応マニュアル等の冊子を配布し防災訓練に参画してまいりましたが、今年こそは住民参加で訓練を行うと準備をしています。

当マンションは築40年になり住民も高齢者が増えてまいりました。ここ最近入居してきた若い住民の方々、また近隣の住民の方々とも協力していかなくては日々頑張っています。

豊洲地区は地震や高潮などの災害時、在宅避難地域に指定されていますが、まずは火災を出さない事、早期に自分たちで消火することが一番に優先することだと痛感しております。

メトロコープ第二豊洲管理組合災害協力隊長 加藤 (記)



防災員より情報

交通防災まちづくりにおける社会実験「明日の危機…関東大震災100年…」

9月1日で関東大震災から100年。これまで4年間にわたり、東京大学と豊洲スマートシティ推進協議会は、江東区における交通防災まちづくりの検討を進めてきました。今回で3回目となる交通防災社会実験では9月1日に大新築株式会社と連携した大島4丁目団地からメジナテラス豊洲まで避難する「水害時事前避難訓練」を行い、広域避難の重要性を確認いたしました。

また、9月の1か月間「交通防災展示」をメジナテラス豊洲で開催しました。自然災害の常襲地であるこの団地に改めて災害に対する備えを高める展示内容でした。スマートシティ推進協議会：大村記



豊洲5丁目マンション自治会 2022(令和4年)年9月~2023(令和5年)8月までの主な活動

1. 各種活動
 - (1) 第五回豊洲5丁目マンション自治会総会開催(コロナ対策のため無観戦によるもの開催：2023/04/26)
 - (2) 都庁豊洲5丁目地区自治会、豊洲5丁目地区開発協議会とともに、合同総会として第179回(2022/09/10)~第190回(2023/08/12)計12回、及び第9回豊洲5丁目地区自治会(仮称)江東区豊洲5丁目自治会)開催。いずれもZOOMによるリモート会議。平均約25名の参加
2. 防災活動
 - 「豊洲5丁目6丁目地区防災訓練」及び「第1回豊洲5丁目小学校避難所運営本部訓練」の参加(2023/03/11)
 - 3. 各種防災活動の開催
 - ・ノルディックウォーキング(これまで3回実施)
 - ・夏のラジオ体操(本年度は7/31~8/4に実施)
 - ・お祭り889日産リハクサー(8/26)
 - 4. 学校行事への参加
 - 久しぶりとなる豊洲5丁目小学校の卒業式/入学式、及び学校研修委員会へ参加
 - 5. 各種まちづくり活動
 - ・スミラテラス 5月~10月 毎月一回「物知りトロール(毎月一回)
 - ・江東区、深川消防署からの防災士発表会(仮称)・豊洲5丁目街づくりニュース発行(毎年一回)・定例会議開催事務局(毎月一回)
 - 6. 民間各団体への参加：豊洲地区若林リサーチナズ協議会

※本報告への対応、及びその更新は以下のページで、Eメールにてお願ひします。なお、豊洲5丁目マンション自治会の関係者以外の方へはご送付いたしません。御意を察し、必要に応じてご連絡ください。

豊洲5丁目マンション自治会 小山 e-mail: kayama@k-ko.com

豊洲5丁目街づくりニュース No.23

令和5年9月30日(発行) 豊洲5丁目マンション自治会

豊洲5丁目街づくりニュースは、豊洲5丁目地区自治会(仮称)・豊洲5丁目マンション自治会、豊洲5丁目地区自治会、豊洲5丁目地区開発協議会)の協力で、ご提供いただいている各団体の活動の紹介と取り組みです。

豊洲5丁目マンション自治会を代表しあいさつをかね、近況をご報告させていただきます。

豊洲5丁目マンション自治会 小山 義久

街の再起動ということ

長かった閉居の時代もようやく終わったようです。さまざまに再開されるイベントでは、どこもこれまで見たことのないような大勢の客に誘き寄せ、街に賑わいが戻ってきました。まさに街が再起動しているかのようです。

ただその賑わいにおいて、私たちはこの4年のブランクで“失った何か”に気がつくと思います。それら一つ一つを復活させることが本当の意味での街の再起動ではないかと思っています。

6年ぶりの富岡八幡宮例大祭豊洲神輿で感じたこと

神輿運営会議である祭礼委員会の祈、「接待所って何ですか?」との疑問があり、一同思わず顔を見合わせる場面がありました。この4年間で一部の団体では役員交替が進み、神輿行事などの継承が途絶えてしまったという一側です。幸いにもこの団体では先輩方が遠慮に駆けつけ大盛況の接待所となったそうです。

豊洲5丁目マンション自治会の組織構成

豊洲5丁目マンション自治会(仮称)は豊洲5丁目地区自治会(仮称)として、豊洲5丁目地区自治会、豊洲5丁目地区開発協議会とともに豊洲5丁目の街づくりを推進しています。

<会長>
メトロコープ第一豊洲管理組合、メトロコープ第二豊洲管理組合、フロンティア豊洲管理組合、協賛会社 武蔵、利根谷社 神和企画、パークホームズ豊洲グレイズマンション管理組合、オーベルグンティアイババ・フロント管理組合

<副会長>
豊洲5丁目タワー管理組合

<実行役員>
豊洲5丁目地区自治会(仮称)

<顧問(9月30日現在)>
会長 小山 義久(仮称) 副会長 加藤 博也(仮称) 副会長 加藤 大直(仮称) 副会長 渡田 真(仮称) 副会長 西川 幸司(仮称) 副会長 寺川 隆幸(仮称) 監事 船山 明(仮称)

<幹事会>
事務局 寺川 隆幸(仮称) 会 計 部 崎 子(仮称) 広報 小山 義久(仮称)

街を再起動しましょう

このように再起動するということは結構大変な事です。しかし大変だからと言ってやめてしまったり、“失った何か”はもう二度と戻ってこないかも知れません。そんな事がないように私たちの豊洲5丁目の街づくりを皆さまといっしょに進めて参りたいと思います。今後とも皆さまのご協力をよろしくお願ひ申し上げます。そして来る11月5日(日)の「第9回豊洲5丁目地区自治会(仮称)に」ご参加ください。



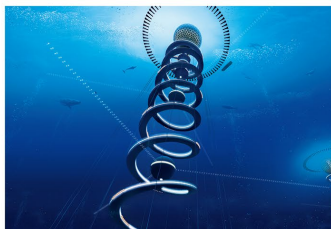


子どもたちに誇れる2030へ，そしてその先へ。

世界に新しい価値を生み出すにはどうすべきか。

シミズグループは常に変わり続け、何事にも挑み続けることで建設事業の枠組みを超え、世界に新しい価値をもたらします。

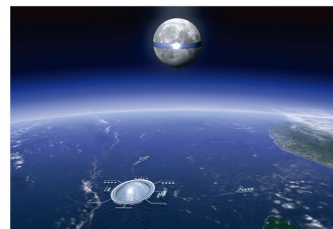
SHIMIZU DREAM



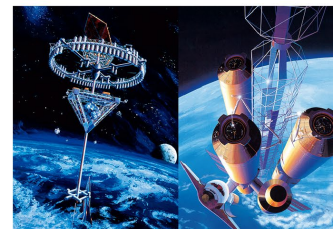
深海未来都市構想 OCEAN SPIRAL



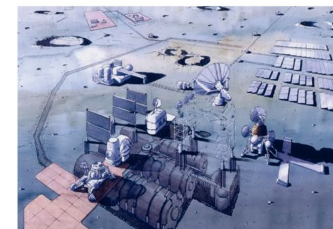
環境アイランド GREEN FLOAT



月太陽発電 LUNA RING



宇宙ホテル



月面基地